

Dr's message

# 阿部光文病理検査室部長にきく

～すべての診療科のパートナー～



―病理検査とは？

阿部 業務として身体の細胞検査、外科手術で採取された組織検査、不幸にして亡くなられた方の病理解剖を行っています。細胞検査は一個一個の細胞が良性、悪性のガンに患されていないか、感染していないかなどと検査します。細胞検査士が5人いますが、この5人が顕微鏡で診て陽性のものを専門医がチェックして製してくれた標本を病理医が顕微鏡で見て診断します。

―常勤の専門医は阿部先生だけですが、全国的に数が少ないそうですね。

阿部 実際に現場で従事している病理医は1900人から2000人くらいです。アメリカは20560人います。アメリカ並みにすると8939人必要です。日本は少なすぎますね。一人前になり、1人である程度

―各診療科からの依頼はふえていますか？

阿部 ふえていますね。私が当院にきた2000年は年間約3000件くらいでした。いまは6000件くらい。2倍になっています。

―ガンがふえているのが大きい理由ですか。

阿部 それもありますが、検査の領域が広がり、高度になっているのも見逃せません。最終的に病理診断がより確定診断として必要となっており、また腫瘍特異性を調べる分子病理学の発展もそうです。当院には昨年新しい自動免疫染色装置を入れ、迅速に対応できるようにしました。

―機械の進歩が著しい？

阿部 機械だけではありません。遺伝子の解明が進むなど、医学の精度が上がってきた為に、より病理での確認の重要性が増加してきていることから、総合的に病理医学のレベルが上昇したことが考えられます。

―先生は病理解剖も手がけておられますか。

阿部 病理解剖とは臨床医の依頼によって行なう解剖ですが、臨床の先生が「よくわからない部分が残っている」「経過として納得がいかない」というようなときに依頼がきます。いま年間6例くらいですが、減りました。画像診断で解明できなくなったのが大きいと考えられます。

―医学生は解剖で勉強しますよね。

阿部 どんな時代でも解剖は重要だと思っています。解剖学は人間の身体をおぼえるものとして重要でしたが、その診断が正しかったかどうか、結果をみるためのものでもあります。さらに解剖によって新しい発見がある場合もあります。

―大学で解剖を見学しましたが、血の気がなくなっていましたか。

阿部 乳幼児を解剖するときにはやりにくかったですね。私も子を持つ親ですから「可

―病理との出会いは？

阿部 実家が開業医で患者さんに年寄りが多く老人医療を志していました。認知症のことを考えて「頭の解剖を知らないダメだろう」と思い、病理で勉強させてもらう機会を得て「こんなすごい、おもしろい世界がある」とはまりました。昔は病理医のことを「ドクターズドクター」（医師の為の医師）と言った事もありました。いまはすべての診療科とかわり、そのよきパートナーになるよう志しています。院内でのカンファレンスやCPC（臨床病理検討会）を通しての勉強会も定期的に行っています。



町田市民病院  
あべみつひろ  
阿部 光文 病理検査室部長  
Profile  
聖マリアンナ医科大学卒。平成12年4月1日から町田市民病院勤務。検査部長も兼務している。

四季折々

＊ いしきおりおり ＊  
▼3・11・14・46は終生忘れられない数字になるだろう。東日本大震災の被害はまだふえ続けている。被災された皆さんに心からのおくやみとお見舞いを申し上げたい。一日も早い復興を祈り、やれることをやって支援したい▼市民病院も大きく揺れ、停電した。その時間帯には2件の手術が行われていたが、即時自家発電に切り換え、無事終了した。患者さんに事故などなかったのも幸いであった。▼2月10日には町田消防署といっしょに大がかりな防災訓練を実施したが、日ごろの心構えはいかに大切か、今度の状況を見ても痛感する。しかも常に最悪、最大のケースを想定しておくことだ▼テレビのニュースでは濁水の中に孤立している病院が映し出されていた。屋上にSOSと書き、数人が手を振って助けを求めている。▼大揺れの中、当院では帝王切開で1人の赤ちゃんが誕生した。大切に育ってほしい生命である (四方)

### 2010年度第三回「町田市病院事業運営評価委員会」開催

2010年度第三回の町田市病院事業運営評価委員会が2月16日、開催されました。当院からは2010年度決算見込の報告、および2011年度事業計画の説明をしました。委員からは、全国的に問題となっている救急医療などに対し市民の理解と協力を得る必要があること、医師会との連携を強化すること、医療機器購入計画の更新を行うこと、材料費削減目標数値などについて、ご意見ご提案をいただきました。

- ご出席の委員のみなさん
- 赤見透(北里大学病院副院長)
  - 木藤一郎(旭町2丁目町内会長)
  - 牧宏暢(町田市医師会副会長)
  - 増岡和子(病院ボランテニア)
  - 水町浩之(経営コンサルタン)
  - 山内芳税(理士50音順、敬称略)



# 町田市民病院ってどういう病院？

2010年6月に南棟1階のエントランスホールの正面に患者サポートセンター(以下文中センター)を開設いたしました。このセンターは患者様やご家族が安心して当院をご利用いただくための窓口です。

様々なご相談やご意見をプライバシーに配慮しながらお伺いし、必要に応じて患者様やご家族とご一緒に対応させていただきます。

また、病院は外来、病棟、検査、薬局、会計など様々な部門に分かれ多数の職員が関わっています。このため、困っている時にはどこに聞きに行けば良いのか迷ってしまいます。そのような時には是非、センターに立ちよっていただきたいと思っております。



▲センター外観

### 担当職員

看護師4名、事務1名、保安担当2名が、毎日交代で勤務しています。

主には看護師が対応していますが、相談内容によっては、それぞれの関係部門や専門部署への取り次ぎを行っています。また、保安担当は警察OBが従事しており、院内巡回を行いなが

ら危険物の発見や盗難防止、トランプル防止などの保安管理に努めています。

### 相談の内容

患者様やご家族が抱いた不安や悩み、疑問に思った事、聞きづらい、でも気になる「ちょっととした事」を誰でも良いから相談に乗ってほしい。気軽に声が掛けられたら。そんな思いに込めて、センターでは患者様と医療従事者の架け橋になれるよう心掛けています。

ご相談の中で最も多いのが、「痛みや腫れ、頭痛や発疹などの症状がありどの科に受診したらよいか」といった受診相談です。また「症状が改善しないが悪い病気ではないのか」などの不安、心配、悩みなどの診療相談も多くあります。

その他に、ご家族の病気のことで、退院後の介護のこと、入院費の支払いのこと、他院への転院や受診のことなどの相談もあります。

また病院に対するご要望やご意見も寄せられます。内容は、待ち時間、診療の説明不足、職員の態度や対応、院内の設備、駐車場など様々なことについてです。

1日の相談件数は10件から12件位です。



▲ご相談はお気軽に

### 相談への対応

いただいたご意見やご要望にできるだけ早く対応するようになっています。

検討が必要な場合には各部門や関係職員、責任者にも報告、相談をしております。内容によっては解決の方法を患者様、ご家族とご一緒に考えながら対応しています。

### 支援するセンターとして

これまでの患者相談は患者様から苦情やご意見をいただくというイメージの窓口でした。しかし、このセンターは、解決の方向性を一緒に見い出して、患者様やご家族が安心して医療を受けられるように支援するセンターです。

今後も皆様に信頼され安心して町田市民病院を受診していただけるよう日々努力してまいります。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

- サポートの内容
- ◇ご案内・ご相談
    - ・受診に関して
    - ・予約接種・予約
    - ・薬剤・検査について
    - ・予約の変更
    - ・施設案内
    - ・書類関係
  - ◇ご意見・ご要望
    - ・ご対応
    - ・設備・システム
    - ・診療内容
    - ・待ち時間



- 専門部署へのご案内
- 医療相談
  - 看護相談
  - 薬剤相談
  - 栄養相談
  - 女性外来
  - 書類関係相談

医療安全に関するご相談

ご意見・ご要望など

お困りなこと・ご心配ごと等、お気軽にご相談ください。

「患者サポートセンター」窓口  
(場所) 南棟1階南口エントランス正面(入院受付のそば)  
(開設時間) 平日8時30分~17時

# えて 看護士さん

## Vol.9



### 手術室について

当院の手術室は東棟3階にあり、平日は8部屋全室を使用し、各診療科の手術を行っています。



▲手術前ミーティング

手術室では、麻酔科部長を始めとする医師、看護師、臨床工学士、診療事務、清掃関連の職員が協力しあって業務を行っています。手術件数は、平成21年度は年間3000件を超えました。外科を始めとした、院内のほとんどの診療科から依頼があり、緊急手術にも速やかに対応できるような体制で臨んでいます。

### 手術室看護師の仕事内容

患者様にとって手術を受けることはとても心細く不安です。私た

ちは絶えずこのことを念頭に置き、患者様やご家族の不安が軽減し、安心していただけるように心がけています。手術前日には、病室へ伺い、直接患者さまにお会いして手術室の様子などの説明を行い、手術前・中・後において責任を持った看護が提供できるよう努めています。また、患者様が最善の状態です。手術が受けられるようにスタッフ間での検討会や意見交換なども行っています。

小児の手術に関しては、お子様はもちろんご家族も心配な事が多いと思います。可能な限り前日に手術室に入っていたいただき、麻酔科医師から手術の流れなどについて、子供にもわかりやすく説明をしています。この方法を導入したことで手術当日に泣き顔をみせるお子様はほとんどいなくなりました。

また、必要に応じて手術後にも患者様を再度訪問しています。



▲協力しあい安全でスムーズに

### 手術室での新しい取り組み

昨年7月から、手術前の点滴に代わって、専用の飲み物が飲める経口補水療法を一部の手術の際に始めました。この方法では、当日にも飲み物を飲むことができ、手術前の「のどの渇き」や「空腹感」を和らげることが出来ます。実際に体験された患者様からは、のどの渇きが少なくなった、点滴によるストレスが減った等のご意見をいただいています。



### より安全で安心な手術看護の提供に向けて

手術室では「確認第一！」を基本にして繰り返しチェックを行っています。そして看護師は手術室のチームの一員として専門的役割を果しています。

今後さらに、安心・安全な信頼される手術を提供できるように努力していきます。

## 第8回町田シンポジウム開催

主催 町田市民病院  
後援 教育・研修委員会

3月5日(土)午前9時から正午まで、南棟3階講義室にて「第8回 町田シンポジウム」が開催されました。テーマ「かかって良かったと言われる病院にするために」を掲げ、131名の職員が参加し、日ごろの研究成果を発表しました。医療従事者は、多忙ゆえに研究成果を院内で共有する機会がなかなかありませんが、当日の発表者は医師3名、歯科医師1名、コメディカル4名、看護師10名、管理栄養士1名、事務1名に及び、各部門の課題や成果をひとり5分という限られた時間のなかで発表し、情報を共有しました。後日、特に優れた発表を行った職員に、表彰状が贈呈されました。





元町田市民病院脳神経外科部長  
大塩 恒太郎 医師

vol.9  
エッセイ  
Essay

## 「地域連携パスと取り組んで」

4月1日をもって町田市民病院を離れ、大学に戻りました。研修医の1年を含めると通算で7年間お世話になりました。まわりのスタッフは私に対して寛容でした。おかげで仕事がやりやすく、気持ちよく過ごしました。ある時期2人体制になったことがありますが、このときは1人が外来、1人が病棟・救急で、日常の診察に加えて救急・手術と本当に忙しかったです。半年ほど続きましたが、振り返って番制で落着いています。

脳卒中の地域連携パスには積極的に取り組みました。連携パスは脳卒中の治療を円滑に行うためのシステムづくりといったらいでしょうか。脳卒中の急性期の患者さんは町田市民病院で診ますが、次のステージ、回復期にはかかりつけ医(開業医)のところに移ってもらいます。この段取を組むのが第二ですが、市民病院の手を離れても医師同士が情報を共有する必要があります。とりあえずは三多摩医療圏で完結するようにし、やがて全国に及んでも同じ情報、そして同じ治療ができるようにすることです。不幸にも患者さんが再発されたときでも以前のデータや治療方法を直ちに頭に入れて対応できます。取り組んで3年になりますが、連携パスを適用したのは年間3000人位になります。大事なのは地域の先生方との人間関係です。南多摩医療圏急性期部会に参加

## 防災訓練

2011年2月10日(木)に町田消防署と町田市民病院が連携して、自衛消防訓練を実施しました。病院職員は医療職・事務職を合わせて約80名、消防署員約30名が参加し、消火器20本を用いた放水、応急手当訓練、はしご車による救出訓練など、近年では最大規模の訓練となりました。

今回の訓練では、傷病者の受け入れ・手当のほか、火災を想定した自衛消防隊による消火訓練にも重点を置きました。災害拠点病院である町田市民病院には多くの被災者が搬送されるため、病院自身の被害を軽減し、受け入れ体制を維持することが求められています。

今回の共同訓練では町田消防署長からも「手際よく訓練が行われていた」と評価されました。今後も日々様々なケースを想定した訓練を実施し、非常時にも十分に機能する市民病院として、市民の皆様の拠り所であり続けるよう努力していきます。



▲病院職員による一斉放水訓練

### Profile

大塩恒太郎  
(おおしお こうたろう)  
3月末まで町田市民病院脳神経外科部長。4月から聖マリアナ医科大学付属病院に勤務。岐阜県多治見市出身。高校でラグビー部を創設し、大学でもフットボールで活躍した。

して、できるだけ顔つきをしたり、医師会に頼まれて講演にかけました。システムというも互いによく知っているという関係が基本です。それには顔つき合わせ、話し合つて人間性をわかり合うのが肝心。地域連携パスはまだこれからです。途中で離れることになって残念ですが、町田市民病院の看護師や放射線技師、ケースワーカー、理学療法士や栄養士、薬剤師などのスタッフの皆さんはだれも町田の医療を良くしようという情熱を持っています。地域連携室もあります。患者さんには遠慮なく相談して下さい。

## ホームページをリニューアルしました

市民病院のホームページを8年ぶりにリニューアルしました。

市民の皆さまや地域の医療機関の方々にとって、より見やすく、分かりやすいホームページとするために、デザインや機能面を一新しました。

今後もコンテンツの充実に努め、皆さまにとって役立つ情報を発信できるよう、取り組んでまいります。

本季刊紙のバックナンバーもご覧いただくことができますので、是非アクセスしてください。



〈ホームページアドレス〉 <http://www.machida-city-hospital-tokyo.jp/>

### 編集後記

当院の被災者支援は動き出しています。被災地から患者さんを受け入れ、医療チームはいつでも出られるよう待機中。長い支援になりそうですが、しっかりと対応してまいります。